

ワニのガルド

友だちとぼく

2年 A・Kくん

ぼくがこの本の中で心にのこったぶぶんは、二つあります。

一つ目は、ヒナちゃんとアヤカちゃんが、ガルドとおわかれをするところです。せつかなかよくなれた友だちと二どと会えないと思つて、かなしい気もちになり、なみだが出そうになりました。

でも、はんぶんは、よかったなとあんしんした気もちもありました。ヒナちゃんとアヤカちゃんは、心のつうじ合う友だちになれて、もうさみしくないんだと思つたからです。

ぼくも、なかのいい友だちとあそんだり、わらったりしているときは、さみしくなんかありません。たのしい気もちが百パーセントです。

でも、ときどきは、友だちといっしょにいてさみしくなることもあります。そんなときは、ガルドが空をおよいでいるかもしれない。ぼくもガルドに会えたらいいなと思いました。

二つ目は、ガルドのことです。「生まれてきたからには、友だちを作りなよ。だれかをまるごとすきになるんだ。」

読んだ時、「まるごとすきになる」とは、どういふことなのか、よく分かりませんでした。でもよく考えてみたら、いいところもわるいところもすきになるということなのかなと思いました。

ぼくには、大すきな友だちがいますが、ぼくとちがうところがたくさんあります。ぼくは本を読んだりおりがみができますが、かけっこやおにびっこがすきなお友だちがいたり、すきなたべものやすきなあそびもみんなそれぞれです。

でも、ぜんぶひつくるめて、友だちのことがすきななと思ひます。

まるごとすきな友だちと、もっとなかよくなつてほしいと思ひました。